

令和6年度ICT教育パイオニア校検証方針（抜粋）

1. 1人1台タブレットの活用検証

協働的な学びにつながる児童生徒間・児童生徒一教員間のやりとりの場面で、1人1台タブレットを積極的に活用した授業実践を行い、適宜振り返り及び改善を行ってください。

個別最適な学びを進め、探究的な学びを支える道具として、子どもたち自身がタブレットを自律的に活用するとともに、積極的に持ち帰り、家庭学習や学校での学びとの往来に生かせるよう指導を行ってください。

2. テーマ別研究実践

令和5年度の研究実践を踏まえ、喫緊の教育課題への対応、今後の教育データの利活用及び教育DXを見据えて、以下のテーマについて研究実践を行い、実践結果をとりまとめてください。

●小牧小：特別支援教育におけるICT活用

（学習支援アプリ・学習者用デジタル教科書等の活用など）

●大城小：外国人児童生徒・日本語指導におけるICT活用

（学習支援アプリの活用、所属学級・日本語初期教室との連携など）

●小牧中：誰一人取り残されない学びの保障におけるICT活用

（不登校・別室登校児童生徒等の学習支援・相談、適応指導教室との連携など）

●光ヶ丘中：校務DXにおけるICT活用

（生成AI、クラウドツールなどの活用）

3. 先進事例等の調査・研究

1・2の検証に関連する内容、学習者用デジタル教科書・AIドリルの活用、教育ビックデータの活用、教育ダッシュボードの構築など、授業改善及び今後のICT環境整備等につなげていくため、全国の先進事例を調査・研究し、情報共有を行ってください。

4. アドバイザー訪問（任意）

1・2・3の検証を踏まえ、1人1台タブレットをはじめとする各種ICT機器を活用した授業について、ICT教育分野に精通した有識者の視察を受け入れ、学校及び市内の取組に対する助言等をいただき、授業等の改善に努めてください。